

防水性、施工性そして耐久性。

それぞれのパフォーマンスが屋根下葺材の最強ブランドを作り上げた。
ニューライナールーフイング、30年の耐用年数。

屋根、勾配屋根は日本瓦、住宅用化粧スレート、金属板など、数多くの仕上材で葺かれています。しかし、これらの仕上材だけで完全な防水機能を得ることは不可能です。その強化手段として併用され、雨漏り防止の決め手といわれてきたのが、屋根下葺材です。

ニューライナールーフイングは屋根下葺材のトップブランド。防水性、施工性、耐久性など、さまざまなパフォーマンスで、実績を積み上げてきました。

ニューライナールーフイング、耐用年数30年。トップの自信です。



改質アスファルトとは？

改質アスファルトとは、高温でダレやすく、低温で脆くなるアスファルトの短所を改良したものです。アスファルトの改質には、一般的に高分子材料（合成ゴム、合成樹脂）を用いますが、その他溶解用助剤、無機質混合物などを併用することがあります。一般に改質材を多く含めば効果が高いと考えがちですが、改質材の種類や配合方法によっても性能が大きく変わります。

ニューライナールーフイングで使用している高品質の改質アスファルトとは、アスファルトと改質材が均一に分散され、分離しにくいものを指します。

均一に分散され分離しにくいものは安定性が高くなり、耐久性が高くなります。



ニューライナールーフイングの材質

3層構造の信頼性

- 合成繊維不織布基材にアスファルトを含浸
- 防水工専用改質アスファルトを使用
- 吸、放湿効果の高い裏面基材

ニューライナールーフイングの性能

- 表面被覆材として合成繊維不織布基材と高品質のアスファルトを使用。
- 中核の改質アスファルトは、釘穴シーリング性に優れている。また、感温比が小さく、高温時、低温時の温度変化の影響を受けにくい。
- 冬期低温時においても柔軟性があり、入隅直角部でも折れ切れがしにくい。
- 軽量なので高所勾配面での作業時取り扱いが容易。

防水性

釘穴シーリング性

下葺材の重要な特性は釘穴シーリング性です。屋根工事では、屋根材や瓦の固定などに釘を用いるため、数多くの釘が下葺材を貫通します。下葺材は、釘穴からの雨水の浸入を防ぐために使用されます。

ニューライナールーフイングは釘穴シーリング性を高めるために、高品質の改質アスファルトを用いています。

寸法安定性

下葺材は屋根に用いられるため、外気温の温度差や時間の経過による膨張・収縮が少ないことが重要になります。伸縮量が多いと釘やステーブルの穴が拡張することもあり、防水性能の低下を招く恐れがあります。ニューライナールーフイングは高品質の合成繊維不織布を用いているため、寸法変化が小さくなっています。

施工性

機械的強度

引張性能と引裂強度は、下葺材の基本的な性能です。屋根工事では、下葺材の上で作業するため、十分な強度と伸び率がないと釘やステーブルの穴が拡張することもあります。ニューライナールーフイングは高い強度を有しています。

温度変化による安定性

屋根工事は、冬期も夏期も行われるため、下葺材は低温、高温での安定性も求められます。ニューライナールーフイングは、高品質の改質アスファルトと合成繊維不織布を用いているため、安定した品質を保ちます。

耐久性

耐久性はアスファルトルーフィングの3倍

アスファルトルーフィング 940 の防水性能を担っているのは、アスファルトです。アスファルトは経年劣化すると当初の柔軟性を失い、次第に防水性能が衰えていきます。一方、ニューライナールーフイングに用いられている改質アスファルトは、アスファルトに比べ2～3倍の柔軟性と耐久性を持っています。経年劣化については、実棟から採取したサンプルによる試験と、試験室での促進劣化させたサンプルによる試験によって評価しています。試験結果から30年の耐久性があることが確認されています。

防水性能の経年変化

- ニューライナールーフイング
- アスファルトルーフィング940

